



# 10月保育所だより

令和5年9月29日

桑折町醸芳保育所

9月中旬以降、全国的に新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの罹患者が増えてきました。現在の新型コロナウイルス感染症の主流はオミクロン株の派生型 XBB.1.5、更にそこから変異した EG.5（通称エリス）です。XBB.1.5 のリスク評価は、

① 他のオミクロン株の変異ウイルスより広がりやすい。

② 免疫を逃れる性質が最も高い。

③ 重症度が上がる兆候は初期段階で見られない。ですが、これから猛威を奮うであろう EG.5 のリスク評価は、①と②までは XBB.1.5 と同じですが、重症度についてはまだはっきり分かっていないようです。東京都での感染状況から、乳幼児や10代の子どもが肺炎を引き起こすケースが非常に多いとの報道もあります。保育所としましては、これまで同様の感染防止対策を継続し新型コロナウイルスもインフルエンザも予防してまいりますので、保護者の皆様も、ご協力よろしくお願いいたします。

さて、「暑さ寒さも彼岸まで」という慣用句がありますが、秋分の日を境に日中の暑さが大分和らいできました。朝晩に至っては寒さを感じるほどです。さわやかな季節となって過ごしやすくなると、子どもたちの活動の幅も広がり、体を動かすことを楽しみ、遊戯室や所庭で元気いっぱい声が響きわたります。秋の虫の声やさわやかな風、色づく紅葉、美味しい食べ物など、秋の季節を五感で感じることが出来るように、環境や遊びを工夫していきたいと思います。

## <今月の保育の目標>

### 0歳児

○秋の自然に触れながら、保育者と一緒に戸外遊びを楽しむ。

○保育者との安定したかかわりの中で、探索活動や好きな遊びを楽しむ。

### 1歳児

○季節の変わり目の気温や体調の変化に気を付けながら健康に過ごす。

○秋ならではの自然に触れたり、感じたりしながら散歩を楽しむ。

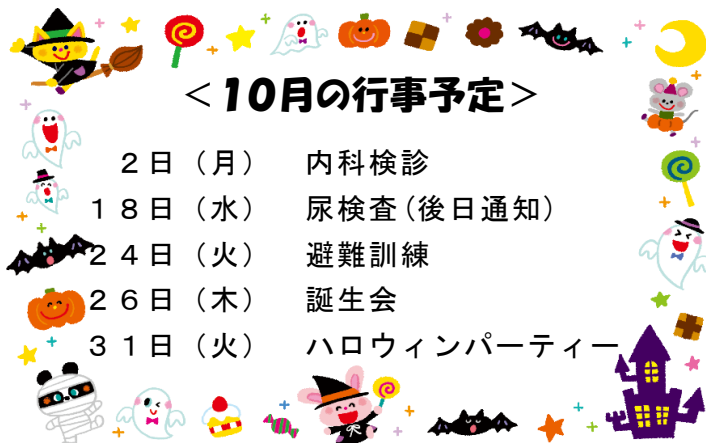
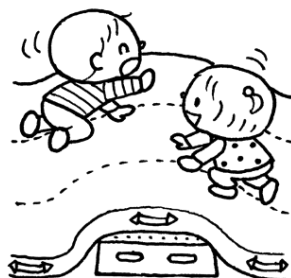
○片言や身振り手振りで、自分の思いやして欲しいことを保育者に伝えようとする。

### 2歳児

○身の回りのことを自分でしようとする。

○秋の自然に触れながら、戸外でのびのびと体を動かして遊ぶ。

○好きな遊びを楽しむ、友達とのかかわりを少しずつ深めていく。



## <10月の行事予定>

2日（月） 内科検診

18日（水） 尿検査（後日通知）

24日（火） 避難訓練

26日（木） 誕生会

31日（火） ハロウィンパーティー

今月の合同保育室も  
ちゅういっ組です。

## <11月の主な予定>

7日 避難訓練（消防車が来ます）

15日 歯科検診

22日 幼稚園との交流会

30日 誕生会

## < 保育所からのお知らせ・お願い >

### 【欠席・遅刻の連絡について】

保育所では、子どもたちの安全確保のため、欠席・遅刻される場合は、当日の9時までにご連絡いただくこととしています。正確な欠席状況の把握のため、連絡帳（前日まで）や電話での連絡徹底にご協力をお願いいたします。なお、さくら連絡網での連絡受付は行っておりませんので、ご了承ください。

### 【尿検査】

10月18日（水）に尿検査があります。（詳細後日）

全員提出になりますので、ご協力よろしくお願いします。



### 【午睡用ベビー毛布・衣替え】

・残暑も落ち着き、肌寒い日もありますので午睡用のベビー毛布をお持ちください。

毛布と毛布カバーがずれないように周囲が縫い付けてあるか確認をお願いします。

・クラスごとに時期をみて、着替え袋を持ち帰ります。衣服の補充と記名がしてあるか確認をお願いします。 日中はまだまだ暑い日もあります。なるべく薄着を心がけ、登所・降所の涼しい時間帯は、長袖シャツ、パーカー等羽織れるもので衣服の調節を行いましょう。保育所の着替えを借りている方は、洗濯して返却してください。

### < 各クラスよい >

#### < たまご組 >

↓ 【風船遊び】 →



9月になっても、暑い日が続き、戸外に出て遊ぶことがなかなかできませんでした。室内では、風船や冷え冷えボトルに触れて気持ち良さを感じたりしながら遊びました。季節の変わり目で、体調を崩してしまうこともありましたが、子どもたちは日々成長していて、低月齢の子がハイハイできるようになったり、高月齢の子が歩行を開始したりして、明るい笑い声が絶えませんでした。10月は、気温の変化に留意して、戸外に出たり、散歩に出かけたりしながら、自然に触れて元気に遊びたいと考えています。



#### < ちゅうりっぷ組 >

↓ 【カートで大好きなお散歩】

① 身の回りのことを自分で頑張っています！！  
オムツ交換になると、自分でズボンとオムツを脱ごうとしたり、はいてみようかと足を入れて引っばってみたり、給食の後には、使ったエプロンを持ってロッカーへ。自分で袋に入れると“できたー！！”といった表情をして自分に拍手！自分のことを自分でという気持ちが芽生えてきました。

② お散歩楽しいな！！

暑さが少し落ちついてきて、散歩に出かける機会も増えてきました。帽子をかぶると外に行くことが分かり、早く行きたくて声を出す子どもたち！！カートに乗るとピョンピョンとジャンプをして喜びます。散歩では、トンボやチョウチョなどを見つけ、いろいろな発見を楽しんでいます。





### <すみれ組>

9月は自分でズボンやオムツの着脱を少しずつできるよう練習しました。少し下げてあげると自分でやろうと頑張っていましたよ。今は、食後のエプロンや手洗い後のタオルを自分のロッカーに片付けることを練習中です。自分のリュックを覚えられない子もいるので、自分の持ち物を教えてあげると良いかもしれません。10月は、涼しくなってきたので、戸外でたくさん体を動かしていきたいです。

←【お昼寝後、バスタオルのお片付け】

### <ゆり組>

少しずつ過ごしやすくなってきて、戸外遊びを楽しめるようになりました。久しぶりの所庭遊びをとて喜んで子ども達。色々な固定遊具にも興味が持てるようになってきて、安全な遊び方や、やり方などを、その都度教えているところです。散歩では、秋の自然に触れながら、保育者やお友達と手を繋いで歩く経験ができるようにしています。戸外でのびのびと体を動かすことが楽しめるようにしていきたいと思います。

→【いらっしゃいませ～🍦アイス屋さん】



### <ひまわり組>



暑い夏も終わり、少しずつ秋らしくなってきました。戸外で追いかっこをしたり虫探しをしたりして楽しんでいます。松の葉や桜の葉っぱ、所庭の草などをごちそうに一品としてお皿に乗せたり、そうさんに食べさせたりしていました。(笑)

戸外に出て遊ぶ機会が多くなりました。帽子を被ってテラスに出ると以前は「先生～やって!」「できない!」と言っていた子ども達でしたが、「先生こう?」と一人で帽子を被ったり靴を履いたりする子の姿が多く見られるようになりました。

これからの季節、たくさん散歩に出かけて秋を発見したいと思います。

←【いいもの見つけたよ～♪】

## <さくら組>

ようやく涼しくなり、のびのびと戸外遊びを楽しめるようになりました。チョウチョやトンボなどの虫取りや砂遊びなど思い思いに楽しんでいます。秋は



【↑砂遊び】

自然にたくさん触れることができる季節なので、これからたくさん遊びに取り入れていきたいです。

生活面では、友達がトイレに行っているから行ってみようかな、保育者が靴下を履いて見せているから真似してやってみようかなと、友達や保育者に刺激を受け自分でやってみようとする姿が増えてきました。「今やるから待ってて～」という声も多くなってきて『みんなで一緒に』『みんなと一緒に』という気持ちも出てきたようです。



【↑トンボ捕まえたよ】

## 家庭生活ポイント 「生活リズム」「あいさつ」「読書」・・・より 子どもの逆境に負けない力 ～レジリエンス～を育てる②

### ネガティブ感情を抱える力の重要性

幼児期において育てていきたいレジリエンスの基礎となる力は、「感情と仲良くなる」ということです。喜びなどのポジティブな感情とは仲良くしたいと思っても、不安や悲しみなどのネガティブな感情と上手に付き合うのは、大人にとっても難しいものです。しかし、レジリエンスを育てていくためには、失敗や困難は欠かすことができない大事な体験となり得ます。失敗や困難に直面した時のネガティブ感情を回避したいと考えるがあまりに、大人が子どもの行動を先回りして学びの機会を逃してしまうのは、子どもの心の育ちの観点からすると、実は非常にもったいないことです。心の不快感に耐え、乗り越えていく経験は子どもの心を強く育てることにつながるのです。

ネガティブ感情を乗り越えていく力を育てるためにも、幼児期の子どもたちにとって感情との上手な付き合い方を学ぶことはレジリエンスを育てる上で大切なこととなります。

### 気持ちを表現する力を育てよう

自分の感情と仲良くなるための最初の一步は、自分の「気持ち」に気づき、上手に表現する術を学ぶことです。

例えば、お友だちと遊んでいておもちゃを取られてしまい、泣き喚いている子どもがいるとしましょう。ついつい、周りの大人は「そんなの気にしない！また順番まわってくるよ」などと、子どもを励まそうとしたり、気持ちを切替ようとしたりしがちです。しかし、まずはその子がどんな気持ちを感じているかに注目してみましょう。「取られちゃって悔しかったね。悲しかったかな？」などと共感的に声をかけて、こどもが感じた気持ちをそのまま受け止めてあげましょう。このように感情に名前を付ける（感情のラベリング）だけで、気持ちが落ち着くこともよくあります。

信頼できる大人からネガティブ感情を感じる自分を受け止めてもらい、感情を言葉にする手助けをしてもらうことで、子どもは「どんな気持ちも感じていい」「ネガティブ感情も大切なんだ」ということを学びます。加えて、「理解してもらっている」「自分の感じていることをそのまま受け止めてくれている」という相手への信頼感も生まれます。 次号につづく▶

出典：河合薬業株式会社発行 健康教育 2022年1月号